



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

失敗のご褒美

頑張った自分にご褒美、結果が出せたからご褒美っていうのはよく聞くし、私も自分にご褒美をあげとった。基本自分に甘く、ご褒美をあげすぎるので、今は失敗したときにご褒美をあげるようにした。(結局ご褒美!!)頑張りが結果となればそれに越したことはないし、それがいい。でも、そんなことばっかじゃない。いや、どっちかっていうとうまいかんことばかりで、それが普通。やから、何かに挑戦して失敗したときにご褒美をあげることにした。

私の場合はおいしいお酒と焼き鳥。ダメ元でやってみてやっぱりダメやった時はふらつと近所の焼き鳥に寄ってカウンターに座り、本を読みながら一番高い焼酎を飲む。レバーをつまみながらそれをゴクゴク飲んで、気分が良くなって、単純な私は堂々とこんな贅沢ができるならまた失敗してもええか!と思えてくる。失敗が悪いものじゃなく、怖いものでもなく、挑戦した人だけがもらえる勲章のように思えてくる。子どもが絆創膏を貼りたがるみたいに、私も失敗の勲章をたくさん貼ってやる!

(テノヒラkiku)



本日！海日和!! vol.140 「神は細部に宿る」



「神は細部に宿る」という言葉がある。魚をクローズアップで撮影した写真を見ているときによく思い出す。

少し専門的な話になるが、その日は小さな魚を撮影するために、マクロレンズを取り付けていた。ハナミノカサゴを見つけたが、体長30cmほどの魚なので、そのレンズで全身を撮影するのは難しい。

そこで、顔やヒレなどの部分を撮影した。海から上がり、写真を確認していたとき、尾ビレの美しさに心を奪われた。棘条(ヒレの硬いすじの部分)が二股に分かれながら伸び、黒い斑点が規則的に散りばめられている。まるで神様が作ったかと思えないような造形美である。



【ハナノミカサゴの尾びれ】

水中ではレンズの交換ができないため、海に入る前に大きな魚を撮影するか、小さな魚を撮影するかを決め、それに応じたレンズを装着する。狙いの魚が撮れないことも多いが、今回のように思わぬ発見もある。

(撮影地:愛南町)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる